

平成19年3月5日
経済産業省

東部南海トラフのメタンハイドレート資源量評価結果について

経済産業省では、メタンハイドレート開発促進事業の一部を独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)に委託して実施しておりますが、本事業のうち、平成17年度より実施してきた「東海沖～熊野灘」の東部南海トラフ海域の資源量評価が今般終了し、このエリアにおけるメタンハイドレートの原始資源量は約40TCFという結果となりました。

本評価の結果概要は以下のとおりです。

- 今回、行った評価は経済及び技術的に回収可能、不可能を問わない、地殻内に自然に存在しているメタンハイドレートの原始資源量。
- 容積法[※])による算出の結果、「東海沖～熊野灘」の東部南海トラフ海域におけるメタンハイドレートの原始資源量としては、確率論的手法による平均値として約40TCF(約1.1兆m³)(このうち濃集帯については約20TCF)となった。

※容積法とは石油・ガスの埋蔵量評価法の一つで、地層中の隙間の中に貯留している石油・ガスの体積を概算する方法。

(本発表資料のお問い合わせ先)

資源エネルギー庁 資源・燃料部 石油・天然ガス課

担当者：祝谷、橋場、長尾

電話：03-3501-1511 (内線 4641～6)

03-3501-1817 (直通)

(参考資料)

メタンハイドレートとは

天然ガスの主成分であるメタン分子が低温高圧の条件下で、水分子の結晶構造の中に取り込まれた氷状の固体物質。

我が国近海の海底地層内に相当量の賦存が見込まれており、国産の新たなクリーンエネルギー資源として有望。



採取されたメタンハイドレート
(氷状: 白色部分)



燃焼するメタンハイドレート